



日本統計学会 会報 2006. 4.25 No. 127

発行 日本統計学会
〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7 統計数理研究所内
Tel 03-3442-5801 Fax 03-3442-5924
Tel / Fax 03-5467-0483 (SINFONICA)
編集責任 竹村彰通(理事長) / 前田彦彦(庶務理事)
栗原考次(広報理事) / 谷崎久志(広報理事)
振替口座 00190-2-61361
銀行口座 みずほ銀行広尾支店普通 1092212番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

1. 巻頭随筆「ローカルな国際学会活動」田中 豊... 1	3.2 「インターネットと統計学とのかかわり」南 弘征... 8
2. 2006年度統計関連学会連合大会のお知らせ矢島美寛... 3	4. 韓国統計学会に参加して谷口正信...10
2.1 諸会費について 3	5. 「第11回日本統計学会賞」, 「第2回統計活動賞」, 「第2回統計教育賞」受賞候補者の推薦募集 ...11
2.2 研究報告の申し込み 4	6. 「日本統計学会75周年記念出版賞」, 同記念推薦図書」への推薦のお願い13
2.3 研究報告集用原稿の提出について 4	7. 修士論文・博士論文の紹介14
2.4 企画セッションのご案内 5	8. 公募情報16
2.5 チュートリアルセッションのご案内 5	9. 評議員会議事録18
2.6 市民講演会のご案内 5	10. 会合案内19
2.7 大会実行委員会からのお知らせ 6	11. 学会の事務連絡先の変更について19
2.8 大会事務局からのお知らせ 6	12. 事務局から20
3. シリーズ：統計学の現状と今後	
3.1 「オークションと統計学」大屋幸輔... 6	

会員の皆様へのお知らせ

1. 連合大会のお知らせが掲載されています
2. 正会員・名誉会員には、評議員選挙のお知らせが同封されています

1. 巻頭随筆「ローカルな国際学会活動」 - IASC/ARS, 脇本記念基金と日韓統計会議

田中 豊(南山大学)

昨年12月15 - 17日香港大学において国際統計会議IascAsian05が開催されました。日本、中国、韓国、インド、シンガポール、タイなどのアジア諸国のほか、オーストラリア、ニュージーランド、フランス、イギリス、アメリカなどから約150人が参加、2件の基調講演、11件の招待講演、2件

のワークショップ、約100件の一般講演が行われました。この会議は国際計算機統計学会(International Association for Statistical Computing, IASC)アジア地域部会(Asian Regional Section, ARS)の第5回大会にあたります。

IASC/ARSの発足について「計算機統計学」7

巻1号(1994)にARS初代会長の浅野長一郎教授による“東アジア地域計算機統計学会(EARS)発足について”という記事があり、その中で先生は、“これで我々はホームグラウンドを持った、COMPSTATはアウェイの場に相当する………今後はアジア地域での活動を大事に本拠とし、また欧米でも活躍するというのが、少なくとも欧米から見て正常な活動と評価されることに配慮頂きたい”と熱く語っておられます。我々が欧米の学会に参加するだけでなく、アジア地域でも学会を開催し、我々が欧米の学会に出かけるのと同じような気持で彼らに来てもらえるような環境をつくるのが重要だ、という趣旨です。当時、ISIやIASCでは国際的な地域活動の重要性が説かれていました。IASCの場合、ヨーロッパ地域部会(European Regional Section, ERS)は1974年以来2年に1回COMPSTATシンポジウムを開催しており、また北米では1967年からコンピュータ科学と統計学の境界領域を対象とする学会Interfaceが活動していましたが、アジア地域にはそういう活動はありませんでした。そこで、ヨーロッパ、アメリカ、アジアのそれぞれにおいて国際的な地域活動を行う体制をつくりたい、という考えのもとで、IASC執行部からCOMPSTATやISI大会のときなどいろいろな場面で、日本からの主だった参加者に対して、強い働きかけがありました。それに応える形で、1993年10月27-30日北京大学でThe Asian Conference on Statistical Computingが開催され、会期中のmeetingでEast Asian Regional Section, EARSの設立を決議、IASCの承認を得て正式に発足することになったものです。東アジアとなっているのは、日本、中国、韓国の統計家が中心となって設立されたことによります。設立後、第2回ソウル(1995)、第3回マニラ(1998)(このときフィリピンの主催者からの要望でSectionの名称がEARSからARSに変更)と順調に推移しましたが、その後、危機的な事態に遭遇することになります。2001年12月に予定されていたバンコク大会が主催者の事情で中止になったのです。ちょうどISIソウル大会(2001年8月)の直後のことでした。

ARSの体制にも弱点がありました。大会中止の時点でARS会長が辞任されたのですが、会長交代のルールが確立しておらず、体制の立て直し(会長の選出と大会開催地の決定)が急務となりました。当時のIASC会長Jae Chang Lee高麗大学教授からの要請を受けて、対応する国内の学会である日本計算機統計学会の評議員会にはかつて検討してもらい、いろいろなやりとりがあった後、結局、同学会の協力を得て私が会長を引き受け(釜山大会で正式に就任)、韓国が次の大会を釜山で2002年12月に開催してくれることになりました。ISIソウル大会の翌年に、準備期間も十分でないという状況のもとで韓国がARS釜山大会を引き受けてくれたことは大変有り難いことでした。それにしても2年引き続いて大きい大会を開催できる韓国の統計学界の実力には敬服の念を禁じません。釜山大会では、会長、次期会長(香港大学Wing Kam Fung教授)、理事、Advisorsが正式に選出され、次の開催予定地も決まって、ほっと一息つくことができました。そして、今回の香港大会です。理事会・総会で半数の理事の交代を含む役員改選が行われ、会長Fung教授(香港、中国)、次期会長Moon Yul Huh教授(韓国)を選出、同時に、会則が制定されました。まだ不備な点がありますが、どうか体制が整い、危機を脱却できたのではないかと考えています。次回大会は、IASCの第4回世界大会を兼ねた形で統計数理研究所の中野純司教授が中心となって2008年12月に横浜で開催される予定です。ARSがCOMPSTATやInterfaceに匹敵する国際的地域活動として発展し、創始者の願い(引き継いだ我々第2世代の願いでもあります)が実現することを願っています。

IascAsian05では日本と韓国からの10名の学生に対してWakimoto Memorial Fundから旅費の援助が行われました。この基金は統計学の発展と日韓の交流を熱心に推進して来られた脇本和昌岡山大学教授(1993年逝去)の遺志の実現のためになされた脇本夫人からの寄付に基づくもので、高麗大学統計学科のJ.C. Lee教授とM.H. Huh教授が管理されています。済州島(1997)や別府(2000)での

日韓統計会議やARS釜山大会（2002）でも脇本学生セッションが設けられ、今回と同様に、日本と韓国の学生に対する援助が行われました。これまでの10年に近い実績によって脇本記念基金は両国の学生の間に周知され、彼らの研究発表を奨励する役割を果たしてきたと考えています。香港での基金のミーティングでは、脇本夫人の了解も得て、今後、他のアジアの国にも対象を広げていくことが決議されました。脇本記念基金の活動が統計学を勉強する日本、韓国、そしてより広いアジア地域の学生の励みになることを願い、この場を借りて、基金のもとで作られた脇本夫人と有意義に運用して下さっている両教授に感謝の意を表したいと思ひます。

すこし長くなりましたが、最後に日韓統計会議にふれさせてください。日韓統計会議はこれまで10回開催され、日中統計学シンポジウムとともに、近隣諸国の統計家の交流促進と、若い研究者に国

際会議参加の機会を提供する役割を果たしてきました。私自身も、また私がこれまで指導した院生たちも、これらのローカルな国際会議で訓練され、多くの知己を得て、より大きい国際会議の場に出て行く勇気を与えられました。日本統計学会では、最近、韓国や中国と年会に数名を相互に招待する形の国際交流が行われています。それはそれで大変意義深いことで、今後一層推進されることを期待しますが、日韓統計会議や日中シンポジウムなどの果たしてきた役割も大きいと考えます。IASC/ARSの設立と危機からの脱却も日韓や日中での人的交流があったればこそできたと思ひますし、今後、ISIやIASCなどの地域活動がますます活発になっていくなかでも、日韓や日中の交流で培われた人的ネットワークが大きい力を発揮すると期待されます。改めてこれらの交流を始めた先輩の努力に敬意を表したい気持です。

2. 2006年度統計関連学会連合大会のお知らせ

2006年度連合大会企画委員会委員長
矢島美寛（東京大学）

既にご案内のように2006年度統計関連学会連合大会は、応用統計学会、日本計量生物学会、日本統計学会の主催および日本行動計量学会、日本計算機統計学会、日本分類学会の協賛により、2006年9月5日（火）から9月8日（金）までの日程で、仙台市東北大学川内キャンパスで開催されます。今回も皆様のご協力により大変充実した内容となりました。以下項目に分けて説明いたします。ただし紙幅の関係で省略している点もあります。全項目を通じて詳細な情報につきましては、連合大会用のWebページ

<http://www.jfssa.jp/taikai/>

をご覧ください。

なおご質問のある方は、ご連絡願ひます。

2.1 諸会費について

大会に係る諸会費は以下のようになっています。

(i) 大会参加費（報告集、CD-ROM代を含む）

(a) 当日受付

会員（主催・協賛の6学会の会員）：6,000円

学生（会員・非会員を問わず）：3,000円

学生以外の非会員：10,000円

(b) 事前申し込み

会員（主催・協賛の6学会の会員）：4,500円

学生（会員・非会員を問わず）：1,500円

学生以外の非会員：9,500円

(ii) チュートリアルセッション参加費（資料代を含む）

(a) 当日受付

会員（主催・協賛の6学会の会員）：3,000円

学生（会員・非会員を問わず）：2,000円

学生以外の非会員：5,000円

(b)事前申し込み

会員（主催・協賛の6学会の会員）：2,000円

学生（会員・非会員を問わず）：1,000円

学生以外の非会員：4,000円

(iii)市民講演会：無料

(iv)懇親会

(a)当日受付

一般：7,000円

学生：6,000円

(b)事前申し込み

一般：5,500円

学生：5,000円

2.2 研究報告の申し込み

研究報告は、「一般講演」、「企画セッション講演」、「コンペティション講演」からなります。申し込み方法はすべての講演に共通の事項と講演ごとに異なる事項がありますのでご注意ください。順を追って説明いたします。

(i)すべての講演に共通する事項

研究報告をご希望の方は、上記Webからお申し込み下さい。他の申し込み方法はありません。申込期間は

2006年5月1日（月）から6月5日（月）までです。

(ii)「一般講演」に関わる事項

通常の研究報告は「一般講演」として各講演者がお申し込み下さい。その際プログラム編成の参考に致しますので、最大3個までのキーワードを選択願います。

(iii)「企画セッション講演」に関わる事項

オーガナイザが一括してお申し込み下さい。

(iv)「コンペティション講演」に関わる事項

今年度は事前審査を採用することにしました。その趣旨についてここでは紙幅の関係で省略しますが、後日改めて説明いたします。講演希望の方はまず「一般講演」としてお申し込み下さい。ただしキーワードのひとつとして「コンペティシ

ョン」を必ず選択し、残り最大2個まで他のキーワードを選択願います。事前審査をパスされた方には一般講演とコンペティション講演の両方で同じ内容を2度講演いただきます。コンペティション講演は、出来るだけ多くの方にお聴きいただけるようにするため、他の講演と重複しない時間帯に行います。事前審査の選に漏れた方には一般講演でのみお話しいただきます。なお事前審査結果につきましては、コンペティション講演者名簿を除き、すべて企画委員会限りの情報と致します。参加資格等詳細はWebをご覧ください。

2.3 研究報告集用原稿の提出について

すべての講演に共通の事項と講演ごとに異なる事項がありますのでご注意ください。

(i)すべての講演に共通する事項

今大会は報告集用原稿を1頁とします。厳守をお願い致します。より詳細な論文を提出されたい方は、報告集用原稿とは別に最大10頁の論文を送り下さい。詳細論文はCD-ROMのみに収録し、大会当日参加者に配布いたします。詳細論文の提出は希望される方のみでかまいません。報告集用原稿および詳細論文の執筆形式については上記Webをご覧ください。

提出方法としては、電子ファイルによる提出と紙原稿による提出を選択できます。紙原稿の提出先は

〒106-8569 東京都南麻布4-6-7

統計数理研究所

統計関連学会連合大会事務局

です。電子ファイルによる提出方法については、Webをご覧ください。いずれの提出方法も、また報告集用原稿・詳細論文とも、締め切り日は

2006年7月3日（月）

です。厳守をお願い致します。

(ii)「一般講演」に関わる事項

各講演者が提出願います。

(iii)「企画セッション講演」に関わる事項

オーガナイザに一任しております。各講演者が提出するかあるいはオーガナイザが一括して提出

するか、オーガナイザの指示に従って下さい。

(iv)「コンペティション講演」に関わる事項

まず、各講演希望者が一般講演と同じ方法で事務局に提出願います。さらに事前審査用に、事務局に提出されたのと同じ報告集用原稿、詳細論文(こちらは任意です)を紙原稿あるいは電子ファイルで

〒113-0033 文京区本郷7-3-1

東京大学経済学部 矢島美寛

yajima@e.u-tokyo.ac.jp

宛にお送り下さい。締め切り日は2006年7月3日(月)です。

2.4 企画セッションのご案内

企画セッションは14のテーマが行われます。テーマ名とオーガナイザはつぎの通りです。各テーマのねらい等についてはWebをご覧ください。企画セッションの運営はオーガナイザに一任していますので、企画セッションで講演される方は直接オーガナイザにお問い合わせ下さい。

1) テーマ:「統計科学とマーケティング」

オーガナイザ: 照井伸彦(東北大学)

2) テーマ:「日本統計学会75周年記念講演」

オーガナイザ: 山本拓(一橋大学)

3) テーマ:「臨床試験におけるAdaptive designの活用」

オーガナイザ: 越水孝(ヤンセンファーマ(株)), 矢島勉(持田製薬(株))

4) テーマ:「インターナショナルセッション1(韓国と日本における標本調査)」

オーガナイザ: Shin, D.W.(Ewha University), Wang, J.(Chiba University)

5) テーマ:「インターナショナルセッション2(パネルデータ解析)」

オーガナイザ: Shin, D.W.(Ewha University), Wang, J.(Chiba University)

6) テーマ:「統計データの可視化」

オーガナイザ: 中野純司(統計数理研究所)

7) テーマ:「アレイデータ解析周辺に見る新しい視点」

オーガナイザ: 井元清哉(東大医科学研究所), 樋口知之(統計数理研究所)

8) テーマ:「ファイナンスの計量経済分析」

オーガナイザ: 谷崎久志(神戸大学), 西山慶彦(京都大学)

9) テーマ:「統計行政の将来を考える」

オーガナイザ: 西郷浩(早稲田大学)

10) テーマ:「統計教育—統計的思考力育成に向けて」

オーガナイザ: 藤井良宜(宮崎大学)

11) テーマ:「生体環境・リスク評価」

オーガナイザ: 広津千尋(明星大学)

12) テーマ:「計量生物学会奨励賞受賞者講演」

オーガナイザ: 上坂浩之(日本イーライリリー)

13) テーマ:「生物統計学の社会的貢献: 四半世紀の経験と今後の展望」

オーガナイザ: 上坂浩之(日本イーライリリー)

14) テーマ:「人口センサスの方法転換問題」

オーガナイザ: 濱砂敬郎(九州大学)

2.5 チュートリアルセッションのご案内

チュートリアルセッションは2テーマを並行して行います。

日時: 2006年9月5日(火) 13:30 - 16:30

テーマ1:「独立成分分析」

オーガナイザ: 下平英寿(東京工業大学)

講演者: 村田昇(早稲田大学理工学部)

テーマ2:「Adaptive and flexible designs in clinical trials」(日本語による講演)

オーガナイザ: 上坂浩之(日本イーライリリー)

講演者: 小山達樹(Vanderbilt University, School of Medicine)

2.6 市民講演会のご案内

市民講演会は下記のテーマについて、お二人の方に講演していただきます。

日時: 2006年9月5日(火) 17:00 - 19:00

場所: 大会会場

テーマ：「人口減少と少子高齢化の社会と経済
—統計データで読む21世紀の日本—」

講演者：

金子隆一（国立社会保障・人口問題研究所）

橋木俊詔（京都大学大学院経済学研究科）

2.7 大会実行委員会からのお知らせ

(i) 宿泊案内

東北大学生協がホテルの紹介・斡旋を行います。詳細は連合大会Webに掲載し、さらに大会プログラム送付時に紙媒体でも情報を提供する予定です。

(ii) 講演者の方へ：利用可能設備について

会場では講演用のプロジェクタおよびOHPが利用可能です。プロジェクタをご利用の場合は昨年と同様、講演者の方には各自PCをご持参いただくことを原則とさせていただきます。予備として Windows PC (Adobe Reader 7.0.5 , PowerPoint Viewer 2003 インストール済) を会場に用意しますが、適正表示をすべて保障するものではありません。

(iii) 保育室

会場に隣接する保育施設「東北大学川内けやき保育園」に委託します。利用規定や申込み方法などの詳細は連合大会Webに掲載いたします。

(iv) 懇親会

9月7日（木）セッション終了後、大会会場に程近い仙台国際センター

(<http://www.sira.or.jp/icenter/index.html>)

にて懇親会を行いますので是非ご参加ください。

(大会実行委員会委員長 佃良彦)

2.8 大会事務局からのお知らせ

昨年度より、参加申し込み・懇親会申し込みが事前にWeb上でできるようになりました。詳細は大会のホームページを参照下さい。事前申し込みをして頂きますと割引になります。事前申し込みの方にも領収書はお渡しします。皆様の申し込みをお待ちしています。

(事務局長 中西寛子)

3. シリーズ：統計学の現状と今後

3.1 オークションと統計学

大屋幸輔（大阪大学）

オークションといえばネット・オークションや美術品のオークションなどが思い浮かびます。新聞の社会面をにぎわす官製談合といった事件の舞台となっているのも入札というオークションの一形態です。効率的な資源配分を達成させるための仕組みであるこのオークションについて、既に経済学の分野では数多くの研究成果がありますが、その理論的研究は経済学という分野をこえて多くの分野へと広がりつつあります。厳密な定義や正確な解説は最後にあげる文献にまかせることにして、ここでは統計学、計量経済学にたざさわものから見たオークションという研究テーマについて簡単な紹介をしたいと思います。

美術品のオークションのような公開競り上げオークションの場合、参加者は自分の評価額に到達するまで競りに参加し続け、他者の評価額が自分のそれを超えたら降りることになります。全員がこの戦略に従っており、オークション対象についての各自の評価が正しいものであれば、自分の評価額が最も高かった場合に競り勝ちます。支払いには正確には最後に降りた者の評価額を超えた額となりますが、ここでは直感的な説明のため、最後に競りから降りた者の評価額とします。簡単に言えば一番高い評価額の参加者が競りに勝ち、二番目に高い評価額で支払うということです。この方式はイングリッシュ・オークションとよばれ広く利用されている方法です。この形式のオークションでは自分以外の参加者の評価額に関する情報が

ありますが、公共工事のような封印入札方式の場合、他者の評価額に関する情報は公開されていないのでわかりません。この場合は一番高い評価額の者が落札し、その額を支払うことになります。これを一位価格（ファースト・プライス）オークションといいます。他に支払額を二番目に高い評価額とする二位価格（セカンド・プライス）オークションとよばれる方法もあります。実ははじめに説明したイングリッシュ・オークションと二位価格オークションは、一番高い評価額の者が勝者で、その勝者が二番目の評価額を支払うという点で同じ構造を持っているといえます。一番高い評価額の者にその対象となった財・サービスが配分されるというこの方式は、経済学的な意味で効率的とされます。ちなみに統計学で登場する“効率的”とはちがいます。さらにある一定の条件の下では評価額が一番高い者が勝者となるオークションはその支払いの方法によらず、同じ期待収益が財・サービスの売り手（提供者）にもたらされるという収益同値性原理（Revenue Equivalence Principle）が成立しています。

さて統計学、計量経済学がこのようなオークション理論における研究とどのようにかかわっているのでしょうか。構造がシンプルなので、二位価格オークション（対象財は一つで参加者がN人）で考えてみましょう。参加者 i は自分の財に対する評価額を X_i とし、それを競り値としています。ただし各参加者の評価額は互に独立に連続型確率分布 F に従って分布しているとします。ここで自分の評価額を x として考えます。このとき自分を除いた $N - 1$ 人のなかで最大の評価額を Y_1 とすると、この Y_1 の分布については最大値の分布を考えればよいので $G(y) = \{F(y)\}^{N-1}$ となります。さらに自分の評価額 x が相手の評価額を上回っているときに勝者となりますがそれは $\{Y_1 < x\}$ と表現でき、その確率は $G(x)$ となります。支払いは勝者となった場合のみ生じるので、期待支払額は $G(x) \times E[Y_1 | Y_1 < x]$ となります。この簡単な例からも統計学のテキストにあらわれる順序統計量が重要な役割を果たしていることがわかる

と思います。また実証的な観点からは、私たちが観測できるのはこのようなオークションの場合、winning bid とよばれる Y_1 の実現値のみとなります。そしてその観測値から各自の評価額の分布 F に対する推論を行うこととなります。仮に多くの Y_1 の実現値が利用可能であればその経験分布は G の推定量の一つとして考えることができ、さらにその G の推定量から F の推定量をもとめることとなります。しかし G の推定量から F の推定量をもとめることができない状況も一般的に存在しており、それは識別性の問題として重要な問題の一つになっています。

オークション理論として確立している命題や定理は演繹的なものであり、観測データをもちてそれらを検証するという役割はこれまで計量経済学が理論経済学と実社会との間で果たしてきた役割と同様に重要なものです。先にあげた収益同値性原理も前提となる仮定が正しくなければ成立しません。オークションの計量分析の研究ではこのような仮定の検証を specification test としてやはり重要なテーマの一つとしてあげています。この限られた紙面の中ではほんの入り口しか紹介できませんが、幸いなことに近年、大学院レベルでのテキストも充実しています。例えば、Krishna (2002) *Auction Theory*, Academic Press は統計学関係者がオークション理論を基礎から学ぶのにちょうど良いレベルだと思います。計量経済学関連の文献も数多くありますが、これらを包括する形で Paarsch and Hong (2006) *An Introduction to the Structural Econometrics of Auction Data*, MIT Press がちょうど出版されたばかりです。さらに現在はまだ出版されていないようですが *Handbook of Econometrics*, Volume 6, North Holland の第 1 章にオークション関連のトピックがまとめられているようです。今後も統計学、計量経済学と関連する形でオークション理論の研究成果にふれる機会が増えてくるでしょう。これを機にこの分野にちょっと立ち寄ってみませんか。

3.2 インターネットと統計学とのかわり

南 弘征（北海道大学）

1. はじめに

今日では社会インフラと呼んでも過言ではなくなったインターネットと私との付き合いはとて長く、おそらく生涯ついて回られそうな予感があります。学生時代には（お名前はあえて伏せさせていただきますが）指導教官諸先生より、「そんなことをしていないでちゃんと研究をなさい」とお叱りを頂いたものですが、普及するにつれ、程度の差はあれ、この会報を読まれている会員各位の研究、あるいは職務などにも、インターネットが入り込んでくるものと思います。

このたび、会報への寄稿の機会をいただきましたので、趣味と実益を兼ねて、と書いてしまうといささか語弊がありますが、インターネットと統計学とに並行して関わってきた者として、相互関係についての現状と将来を、現在携わっている話を交えて書かせて頂きたいと思えます。

2. 統計学とインターネットの主従関係

インターネットとデータ解析の関係は、私見に過ぎませんが、2000年前後を境として主従をかえたように感じています。

日本国内におけるインターネットのブレイクは1990年頃といわれていますが、本学会をはじめとする統計関連の学会発表においては、同年以降しばらくの間、私どもも含め、統計学においていかにインターネットを利活用していくか、という観点での研究報告が多数なされていたように思います。当時は、現状のような回線速度が得られず、計算機資源も潤沢と言いきれない状況でしたから、ネットワークを介した遠隔解析例であるとか、Webによる資料提示（現在でいえばe-ラーニングのはしりということになりますでしょうか）などに力点を置いたものが多かったと記憶しています。

ところが昨今では逆に、インターネット界において統計的な技法の援用が少なくないようです。たとえば、いわゆる「迷惑メール判別」の端緒と

されているP. Grahamのフィルタではベイズ統計が用いられているのをはじめ、“Data”、“Computer Security”でネット書店を検索すると、不正アクセスの検出をとりあげたものなど、各種の成書が出ています。たとえばその中で、“Statistical Methods in Computer Security”（Chen（Ed.）, 2005）は目次をざっと見る限り、統計学と直結しない情報ネットワーク関連の表題に見えますが、読み進めば、やはり（Dekkerのシリーズに含まれている以上、当然なのかもしれませんが）統計学的な言及に依っています。

これらに加え、検索エンジンの多くはその効率性や高いヒット率の根拠として統計的手法をおき、理論的な研究も進められ、「情報検索（Information Retrieval）」などの名称を冠された書籍として多くの研究例が報告されています。

3. インターネットから得られる電子データの解析

インターネットにおいて収集可能な、あるいは意識的に収集することなく初期設定状態で発生するデータは、比較的平易な形式をもつことが多く、解析や解釈も容易な場合が少なくありません。たとえば、Webサーバの履歴からクロス表を作成し、そのままの形で対応分析を行うだけでも、相応の情報が得られる旨の報告を、たとえば、Harada et al.（2005）など、当方の研究室からさせて頂いているところです。

最近、インターネットトラフィックに関する実測データを蓄積されている技術グループの方々からの協力要請を受け、実データに触れる機会を得ました。実測したトラフィックデータの解析を通じて、技術的な観点から検証を行い、品質改善などに役立てたいが、具体的なオリエンテーションが見つからないので、（おそらくはインターネット技術にも多少の心得があつて）統計的な見地から助言が可能な人材を探していたとのことでした。

本題から少々はずれますが、ここでは、よく「遅い！」と叫ばれることのあるインターネットアクセスの遅延の原因について少し考えてみます。

- 発信元から到達点までの間の通信帯域不足

インターネットで用いられている通信技術 (TCP/IP) の実装上、途中でどのような経路を通るかは実際に到達するまで誰にもわかりません。まして、通信が行われている瞬間に、その経路が確立できるかどうか、保証の限りではありません。仮に到達が問題なく、両端に高速な環境があったとしても、途中経路に1つボトルネックがあれば、総体として通信速度が遅くなるのはやむを得ません。黎明期には、「『あの会社の回線は高速』という噂が広まる」「『あの会社』の顧客が増える」「総通信速度が低下する」という悪循環が指摘されたものです。

- 分割 (Segmentation) と再構成 (Reassembly)

インターネット上の通信は、通信内容を細かく分割した「パケット」を基調としているため、たとえば複数のネットワークインタフェース層でパケットサイズが異なる場合には、パケットの再分割 再構成の必要が生じ、相応の遅延が発生します。

よく、パソコン雑誌などで、「高速化」のためにMTU (Maximum Transfer Unit, 1パケットに含めうる通信量の最大値) のチューニングが推奨されているのは、(再) 分割 再構成を避けるためのパケットサイズの調整、つまり、はじめからパケットを小さくすることで分割をさけるとともに、個数が増えるため受信用の領域を多めにすることで、円滑な通信が行えるようにしています。

- ネットワークインシデントによる遅延

コンピュータウイルス発生、迷惑メール大量送付、不正アタックなど、いわゆるネットワークインシデントが経路上で発生していれば、当然、遅延が起きます。

このような種々の遅延要因を避けるためには、定常的なネットワークの状態を把握しておく必要があり、そこからの乖離状況を何らかの形で知る

ことにより、技術的な対策が打てると思われれます。ただ、既に述べたように、経路は必ずしも一定でなく、平常時の経路を仮定できたとしても、途中経路に関するアクセス権がないために、実態をくまなく精査することは事実上困難です。

ところで、通信の遅延度合いを測るための手順としてICMP (Internet Control Message Protocol) という規約があります。コマンド名の 'ping' の方がなじみ深いかもしれませんが、Ping コマンドが発するICMPパケットを受けた機材は発信元へ返信を返すので、パケット送出時から返信を受けるまでの所要時間 (Round Trip Time, RTT) が結果として得られます。これが実測、蓄積されているデータです。このRTTを機材間の非類似度とみなすことで、類似度を入力とする種々のデータ解析手法の適用に進むのが (我々にとっては) 自然です。ただし、結果に解釈を与えるのは統計家ではなくネットワーク技術者ですので、できるだけ直観的な理解を促せる結果になることも重要と思ひ、とりあえず、多次元尺度構成法を適用して結果を図示させてみたところ、IPアドレスなどでは判然としなかった「ネットワーク上での地理関係」が明確となり、相応に理解を深めていただくことができました。また、定常状態との乖離の度合いをプロット上で目視、あるいは機械的に判断できれば、ネットワーク網の異常検出に応用できるので、リアルタイムで図示したい、とのご指摘もいただき、最低限のネットワーク技術は持っているとの自負のもと、付与されたデータに手法を適用するところで心理的にも一段落してしまうことが少なくない私としては、正当な？技術者からの指摘から得るものが多くあり、なお、共同で作業をさせていただいているところです。

もっとも、実際の通信上に、測定のために冗長な通信を発生させていること自体を疑問視する向きや、実際のインターネットアプリケーションに用いられる通信手順そのもので測定しなければ意味がないのでは、という指摘もあり、そのための技術的実装も進められているようです。

紙面を長く使ってまでここで申し上げたかった

のは、インターネットから得られるデータの多くは、どちらかといえば単純な領域知識をもっているため、教科書的な解析法を適用するだけでも、かなりの実績を得られることが多い、ということに尽きます。インフラとなった昨今、インターネットに対して貢献しうる学問として、統計学が十二分に存在意義を発揮できる状況にあることを、重ねて申し上げたいと思います。

4. おわりに

このほかにも、意外なところから意外な形で、ネットワークまわりの問題に対する統計的な解法（あるいは窮余策）を求められることが多く、は

じめの方でも述べたように、複雑な心境ではありますが、当学会内でも実社会とのコミットメントについてのご意見が多いと理解しております。昨今、私の遍歴も役に立っているのかもしれない、と、よい方に理解することにしています。

なお、先に述べた技術グループの方々が私にたどり着いたのは、「インターネット」「統計」（あるいは「データ解析」）で「ぐぐった」ところ、数年前のS-PLUSユーザカンファレンスで、今回の表題よりも大括りなタイトルでお話しさせていただいた時のPDFがヒットしたためのもので、自業自得の面とともに、情報検索における数理的な実装技法の完成度を肌で感じた次第です。

4. 韓国統計学会に参加して

谷口 正信（早稲田大学）

日本統計学会と韓国統計学会との間の協定（2002年2月締結）に基づき日本統計学会理事会の推薦により2005年の韓国統計学会へ招聘され、その中の一つのセッションJapan-Korea Exchange Sessionのオーガナイズを要請された。日本側からは慶応義塾大学総合政策学部の小暮厚之教授、韓国側からはソウル国立大学のSangyeol Lee教授と谷口の3人で、このセッションを構成させていただくことになった。会期は11月4 - 5日であったが、Lee氏と私は共同研究もしたことがある間柄なので、まず11月3日にソウル国立大学のセミナー講演に呼んでいただいて、多次元時系列の平均ベクトルのStein-James型縮小推定量の話を見せていただいた。セミナー終了後、参加者の1人から「なぜJames-Stein推定量と呼ばないのか？」という質問が出た。

韓国統計学会はDongguk Universityで開催されJapan-Korea Exchange Sessionは11月4日にセッション題目「Time Series Analysis and Statistical Finance」で、次の3招待講演により執り行われた。

(1) Lee, S. "The change point analysis in

time series models".

(2) Kogure, A. "The Poisson log-bilinear model of forecasting mortality and the valuation of the longevity risk".

(3) Taniguchi, M. "Statistical estimation of optimal portfolios for non-Gaussian dependent returns of assets". ((2),(3)は院生との共同研究)。

この講演会場には昔の院生であるIn-Bong Choi君もきてくれて、今 Korea Institute of Curriculum & Evaluationに勤めていて、元気にやっていると聞き喜ばしく感じた。この日の夕方に大学の施設で懇親会が行われたが、学会長の挨拶等の堅苦しいものは全くなく、和やかで楽しい雰囲気であった。会場には院生クラスの女性研究者も多く、まだ学会としては小さいものの将来への発展を予感させるものがあった。

大会期間中の宿舎はDongguk Universityの近くの立派なホテルをとってくれていて、小暮教授と院生の長谷川さんと一緒に、慶応大学のいろいろな面白い話題を聞かせていただいた。またLee教授は連夜、手厚い接待をしてくれて、ソウルを大

変楽しむことができた。

我国の外交でもアジアの国々との付き合いの仕方は大きな問題であるが、我国とアジアの国々との学术交流の仕方も大きな問題と思われる。私は主に時系列の研究者との付き合いであるが、例えばソウルではLee氏、香港ではN.H. Chan氏等、であるが、最近強く感じることは、これら、それぞれの国の先端的研究者は極めてすぐれた、博學でキレル研究者達であるということである。一昔前は、我国の研究者の目線は、一様に欧米の大家たちに向いていたと思われるが、最近では実際に会って話してみると、アジアの国々の先端的な研究者たちの中には、むしろ博學で頭がキレルのではないかと思われる人が少なからずいるように感じられる。2000年にLee氏により私がソウルによばれたとき、彼らもそれ以前は欧米との国際交流を意識していたが、このころから、国内出張ぐらいでいける日本にすぐれた研究者が多数おり、この国との交流は大きなadvantageであることに彼ら

も気がついたというようなことを言っていた。これは逆も真であり、今後我国の統計学の国際交流を考えると、国内出張感覚でいける国々に極めてすぐれた研究者が多数いることをもっと意識してアジアの国々とのacademic relationshipを発展させる布石を打っておくことが必要と思われる。その意味で日韓の統計学会での交流は大切にしておくべきものの1つと思われる。ただ、どのような形態での交流にするかは、今後議論していかなければならないところであるが.....

Lee氏、Chan氏ともにグルメで、私がソウル、ホンコンに行ったときも、それぞれの国のグルメを楽しませて貰った。彼らも日本食に大変興味を持っており、私が滞在中に、アジアでの時系列解析の発展のためには、まずSeoul - Hong Kong - Tokyoの“gourmet relationship”を築くことが何よりも先決であるといったら同意してくれたようである。

5. 「第11回日本統計学会賞」, 「第2回統計活動賞」, 「第2回統計教育賞」受賞候補者の推薦募集

「第11回日本統計学会賞」, 「第2回日本統計学会統計活動賞」, 「第2回日本統計学会統計教育賞」の受賞候補者推薦を下記により募集いたします。推薦書の書式については、学会事務担当にお問い合わせください。

各賞の推薦締め切りは2006年6月9日(金)です。推薦書の宛先は下記の通りです。封筒に「～賞推薦書在中」と朱書してください。

[宛先・照会先]

(財)統計情報研究開発センター 日本統計学会係
〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F
Tel & Fax : 03-5467-0483
E-mail : shom@jss.gr.jp

[対象範囲]

各賞受賞の対象となる者は、その年齢、性別、

国籍、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。なお、統計活動賞および統計教育賞については個人のみならず、グループや団体も受賞対象になる。

[推薦方法]

各賞受賞対象者の選考は、会員の推薦を受けて、それぞれの賞の選考委員会が実施する。

受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。推薦者は各賞所定の書式にしたがって推薦する。

[発表]

各選考委員会は、その結果を評議員会および学会総会において報告し、大会期間中に授賞式を行う。

なお、各賞の概要と規程を以下にご紹介します。

日本統計学会賞

[名称]

日本統計学会賞

[趣旨]

統計学の研究及び普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

[対象範囲]

対象とする分野は次のとおりとし、全体として年間3名程度に授与する。

- 理論統計学の理論の発展に多大な貢献のあった者。
- 実証・応用・計算；この分野は以下のような内容を含む。
 - (1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。
 - (2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。
 - (3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。
 - (4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[選考方法]

推薦者は対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。受賞対象者の選考は、会員の推薦を受けて、選考委員会が実施する。

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- 日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名、および会長が推薦し評議員会が承認した者若干名。
- 選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。副賞は、原則として「統計学の学会活動60周年記念基

金」の果実の範囲とする。

統計活動賞

[名称]

日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動である。授賞対象は、毎年2件以内とする。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。
- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[選考方法]

授賞対象となる活動は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

- 日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名
- 選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

統計教育賞

[名称]

日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を

挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とし、日本統計学会の会員・非会員の別、国籍を問わない。授賞対象は、毎年2件以内とする。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発
- (4) 統計の普及、啓蒙

(5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[選考方法]

授賞対象者は、日本統計学会に設けた選考委員会が会員からの推薦を受けて選考する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

- 日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し評議員会が承認した者若干名
- 選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

6. 「日本統計学会75周年記念出版賞、同記念推薦図書」への推薦のお願い

75周年記念事業委員会

75周年記念事業の一つとして、統計学関連図書に関する出版賞ならびに推薦図書制度を設けました。これらは会員の推薦に基づいて選考されます。奮ってご推薦下さい。出版賞ならびに推薦図書についての趣旨・選考方法等については、以下の規程をご覧ください。推薦用紙は、日本統計学会のホームページを経由して75周年記念事業ホームページにアクセスすれば、ダウンロード可能です。また問い合わせならびに推薦書送付先は、以下の通りです。

〒112-8551 東京都文京区春日1-13-27
中央大学理工学部数学科
杉山高一研究室内
日本統計学会75周年記念事業委員会

日本統計学会75周年記念出版賞規程

[名称]

日本統計学会75周年記念優秀出版賞（優秀図書賞）

[趣旨]

統計学及び関連分野における優れた出版（図書）の著者・編者とその出版社（企画者）、あるいは出版社（企画者）を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる要件を満たす出版物（図書）とする。

- (1) 日本統計学会に所属する会員が著者・編者・翻訳者として、過去5年程度に刊行した出版物（図書）。
- (2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する優れた出版企画。

[選考方法]

出版賞の選考は、以下の手順による。

- (1) 授賞対象となる出版物（図書）は、75周年記念事業委員会が設けた選考委員会が、会員

からの推薦を受けて、数件選考する。

- (2) 選考委員会は、75周年記念事業委員会委員長(選考委員会委員長)、日本統計学会会長、前会長、理事長、会誌編集担当理事2名より構成される。(なお役職は、平成18年1月時点のものとする)

(3) 推薦締め切り期日：平成18年11月30日

[賞の内容]

受賞対象となる研究成果の著者・编者あるいは出版社・企画者とその出版社(企画者)、あるいは出版社(企画者)に、賞状及び賞金あるいは賞牌を授与する。

[発表]

選考委員会は、選考結果を日本統計学会評議員会に報告し、会報を通じて発表するとともに授賞式を行う。

(平成18年3月4日制定)

日本統計学会75周年記念推薦図書規程

[名称]

日本統計学会75周年記念推薦図書(名称付与)

[趣旨]

統計学及び関連分野における優れた出版(図書)企画に対して、「日本統計学会75周年記念推薦図書」の名称を付与する。

[対象範囲]

名称付与の対象は、次に掲げる要件を満たす出

出版物(図書)とする。

- (1) 日本統計学会に所属する会員が著者・编者・翻訳者として、計画している出版物(図書)。

(2) 統計学に関する優れた出版企画。

- (3) 出版物(図書)は、75周年記念事業期間中(平成19年6月末まで)に発刊予定であること(シリーズであれば、初巻が平成19年6月末までに発刊予定のものであること)。この条件が満たさなれなかった場合は、名称付与は取り消されるものとする。

[選考方法]

推薦図書の選考は、以下の手順による。

- (1) 名称付与の対象となる出版物(図書)は、75周年記念事業委員会が設けた選考委員会が、会員からの推薦を受けて選考する。

- (2) 選考委員会は、75周年記念事業委員会委員長(選考委員会委員長)、日本統計学会会長、前会長、理事長、75周年記念事業委員会副委員長若干名。(なお役職は平成18年1月時点のものとする)

- (3) 推薦は随時受け付ける。ただし推薦の最終締め切り期日は、平成19年3月31日。

[発表]

選考委員会は、選考結果を日本統計学会評議員会に報告し、会報を通じて発表する。

(平成18年3月4日制定)

7. 修士論文・博士論文の紹介

修士論文・博士論文の紹介を、氏名 学位
取得大学 論文タイトル 主査・指導教
官、の順で記載します。

修士論文

- [1] 阿南正亮 修士(数理学) 九州大
学 平行モデルにおける平均の差の区間推
定 百武弘登

- [2] 西丸浩史 修士(数理学) 九州大

学 繰り返し測定値のモデルのパラメータ
推定 百武弘登

- [3] 水由智也 修士(数理学) 九州大
学 欠測データがあるときの等平均の長さ
一定の信頼区間 百武弘登

- [4] 荒木貴光 修士(数理学) 九州大
学 ベイズアプローチに基づく非線形因子
分析 小西貞則

- [5] 仲家 諒 修士(数理学) 九州大

- 学 縮小推定量に基づく非線形回帰モデリング 小西貞則
- [6] 松井秀俊 修士(数理学) 九州大学 関数データに基づく多変量回帰モデリング 小西貞則
- [7] ブリュンガー省己 修士(数理学) 九州大学 非線形判別分析における予測誤差推定とブートストラップ法 小西貞則
- [8] 初道正博 修士(環境理工学) 岡山大学 SNPデータの空間構造を利用したハプロタイプブロック決定 栗原考次
- [9] 高田康行 修士(工学) 東京理科大学 臨床研究の症状評価尺度における欠損値補填法の研究 吉村 功
- [10] 土屋 悟 修士(工学) 東京理科大学 精神科領域の2群比較臨床試験における2次元項目反応理論モデルによる薬効評価の研究 吉村 功
- [11] 中村 悟 修士(工学) 東京理科大学 自発報告のデータに基づいたシグナル検出法に関する研究 吉村 功
- [12] 中水流嘉臣 修士(工学) 東京理科大学 主要評価変数が複数ある臨床試験における有効性の評価方法の研究 吉村 功
- [13] 朴沢博之 修士(工学) 東京理科大学 市販薬剤の使用成績調査に基づく併用薬剤と副作用の関連についての事例研究 吉村 功
- [14] 真野 章 修士(工学) 東京理科大学 治療効果による割付の予見性が懸念される臨床試験の割付法と解析法に関する研究 吉村 功
- [15] 吉永陽子 修士(工学) 東京理科大学 複数群比較試験における群の選別を伴うアダプティブ・デザインに関する研究 吉村 功
- [16] 山本紘司 修士(理学) 東京理科大学 Polynomial diagonals-parameter symmetry model for cumulative probabilities and its decomposition in square contingency tables 富澤貞男
- [17] 新部孝司 修士(理学) 東京理科大学 Decompositions of marginal homogeneity model using cumulative logistic models for square contingency tables with ordered categories 富澤貞男
- [18] 杉山晃庸 修士(理学) 東京理科大学 Extended quasi-symmetry model for cumulative probabilities in square contingency tables with ordered categories 富澤貞男
- [19] 黄地雅巳 修士(理学) 東京理科大学 Decompositions of symmetry model into marginal homogeneity and distance subsymmetry in square contingency tables with ordered categories 富澤貞男
- [20] 櫻井雅也 修士(理学) 東京理科大学 Decompositions of independence model for two-way contingency tables with ordered categories 富澤貞男
- [21] 徳永伸也 修士(理学) 東京理科大学 Incomplete symmetry and conditional symmetry models for square contingency tables with ordered categories 富澤貞男
- [22] 井上 鑑 修士(理学) 東京理科大学 Note on different selection of best-fitting model by likelihood ratio test and Akaike information criterion for the analysis of contingency tables 富澤貞男
- [23] 有賀真由美 修士(理学) 東京理科大学 On the Distributions of Multivariate Sample Kurtosis for Testing Normality 瀬尾 隆
- [24] 飯淵芳美 修士(理学) 東京理科大学 On the Conservative Multivariate Tukey-Kramer Procedure for Pairwise Comparisons Among Mean Vectors 瀬

尾 隆

- [25] 小泉和之 修士(理学) 東京理科大学 Simultaneous Confidence Intervals of the Means in the Intraclass Correlation Model with Missing Data 瀬尾 隆
- [26] 國本征史 修士(理学) 東京理科大学 Multivariate k-sample Testing and Simultaneous Inference for Means with Missing Data 瀬尾 隆
- [27] 渡辺琢也 修士(工学) 成蹊大学 項目反応理論における項目パラメータの推定に関する研究 岩崎 学
- [28] 辻 邦彦 修士(理学) 筑波大学 Location and scale equivariant estimation in the linear regression model 赤平昌文
- [29] 友成公治 修士(理学) 筑波大学 On the optimal weight function in a general selection model 赤平昌文
- [30] 日吉貴之 修士(理学) 筑波大学 On statistical prediction limits 赤平昌文
- [31] 福田 望 修士(理学) 筑波大学 Comparison of tests for some discrete type distributions 赤平昌文

博士論文

- [1] 藤井 亨 博士(数理学) 九州大学 Nonlinear Statistical Modeling via Wavelets and its Applications 小西貞則
- [2] 山形武裕 博士(経済学) 名古屋市立大学 連結会計情報の企業価値関連

性 - 「会計ビッグバン」の影響を中心に - 三澤哲也

- [3] 坂口隆之 博士(理学) 東京工業大学 Threshold method for sample mark moments of marked spatial point processes 間瀬 茂
- [4] 川喜田雅則 博士(統計科学) 総合研究大学院大学 Boosting method for local learning in statistical classification 主査 栗木 哲(指導教官 江口真透)
- [5] 松永信人 博士(工学) 東京理科大学 動物実験における相乗作用の評価および実験デザインに関する研究 山口俊和
- [6] 若菜 明 博士(工学) 東京理科大学 新薬開発過程における臨床用量設定のための解析法に関する研究 山口俊和
- [7] 福島 彰 博士(工学) 東京理科大学 市販後調査に基づく抗癌剤投与後に生じる有害事象の好発時期推定に関する研究 山口俊和
- [8] 佐藤泰憲 博士(工学) 東京理科大学 疾患感受性遺伝子同定のためのゲノム網羅的関連解析研究における実験デザインとデータ解析法 仁木直人
- [9] 岡本直也 博士(理学) 東京理科大学 Profile analysis and multivariate multiple comparison procedures in elliptical populations 瀬尾 隆
- [10] 舞原寛祐 博士(理学) 筑波大学 Set Estimation Procedures in Testing and Multiple Decision Problem 赤平昌文

8. 公募情報

広島大学大学院工学研究科 複雑システム工学専攻教員公募

1. 募集人員：教授 1名
2. 所 属：複雑システム基礎論講座 情報統計学教育科目

3. 専門分野：応用数学(統計数学)

4. 教 育：大学院では統計学特論、学部では工学部専門基礎教育として、級数と常微分方程式、ベクトル解析、フーリエ級数と偏微分方程式、確率・統計、複素関数論、また教養的教育と

して応用数学入門など

5. 応募資格：博士の学位を有し、工学の分野への応用に関心があり、博士課程後期の学生指導ができる方

6. 着任時期：平成19年4月1日

7. 提出書類：

- (1) 履歴書（学歴，職歴，学界活動，受賞歴などを含む）
- (2) これまでの研究概要（A4用紙2枚以内）
- (3) 工学への応用を含む今後の研究計画書（A4用紙2枚以内）
- (4) 研究業績リスト（学位論文，査読付き学術雑誌論文，国際会議論文，著書などに分類）
- (5) 主要論文10篇（著書を含む）以内の別刷り（コピー可）および要約
- (6) 過去10年間の研究費取得状況
- (7) 数学教育に関する抱負（A4用紙2枚以内）
- (8) 応募者について照会できる方2名の氏名，所属，連絡先

なお，選考状況により別途書類の提出を求められることがあります

8. 応募締切：平成18年8月31日（木）必着

9. 書類送付先および問い合わせ先：

〒739-8527 東広島市鏡山1-4-1

広島大学大学院工学研究科

複雑システム工学専攻 柴田徹太郎

Tel/Fax 082-424-7598

E-mail : shibata@amath.hiroshima-u.ac.jp

（封筒に「教員応募書類在中」と朱書し，簡易書留で郵送してください）

早稲田大学国際教養学部助手募集要領

1. 募集人数：1名
2. 採用年月日：2006年9月1日
3. 任期：3年間
4. 募集分野：数理統計
5. 給与等：本学の給与規程による
6. 資格：修士の学位を取得した者（2006年8月修士課程修了見込み者を含む）

む），またはこれと同等以上の学力を有す者．

上記の者でかつ次の各項目を満たす者

- (1) 大学院博士後期課程在学者（2006年4月1日博士後期課程入学決定者を含む）の場合は，本大学大学院に限る
- (2) 2006年9月1日現在の年齢が原則として満35歳以下の者
- (3) 本大学助手の職歴を持たない者
- (4) 採用時に他に職を有しない者
- (5) 日本語および英語によるコミュニケーション能力を有する者

注1) 研究・教授上の補助業務について

助手は自らの研究活動を主たる業務としますが，授業期間中は1週間14時間を目安として，以下に例示する学部運営上の補助業務を依頼する場合があります．

- ・数理統計入門コースの補助（コーディネート及び英語でのチュータリング）
- ・学部等の主催する講演会等の実施，運営に関する補助
- ・学部等で発行する紀要等の編集に関する補助
- ・授業実施に関する補助
- ・入学試験および各種試験に関する補助監督
- ・学生に対するガイダンスおよびオリエンテーションへの参加
- ・その他学部長が必要と認める事項

7. 応募書類：

- (1) 履歴書・研究業績書（大学指定のもの）ホームページからダウンロードしてください．
<http://www.waseda.jp/sils/ap/assistant-j.pdf>
- (2) 修士課程修了証明書（または修了見込み証明書）および本大学大学院在学者の場合は大学院博士後期課程在学証明書
- (3) 成績証明書（学部，修士，博士後期の各課程におけるもの）
- (4) 指導教員または推薦教員の推薦状1通（国際教養学部学部長宛）
- (5) 健康診断書
- (6) 研究計画書および国際教養学部助手として

の抱負（A 4 2枚程度，日本語・英語のいずれでもよい）

(7) 主要な研究業績 3点以内（修士論文を含む）
（コピー可）

注2）応募書類は返却しません．

8．応募書類受付期間・提出先

期間：2006年3月27日（月）

～2006年5月12日（金）（必着）

書留もしくは宅配便により送付（持参不可）

宛先：

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-21-1
早稲田大学国際教養学部
「数理統計」助手採用係宛

9．選考方法

(1) 第1次選考（書類選考）

選考結果は2006年5月下旬に本人宛Eメールにて通知

(2) 第2次選考（面接試験，英語による面接を含む）

6月3日（土）（詳細は第1次選考合格者に通知します）

旅費等は自己負担となります．

10．問い合わせ先

Email sils-josyu-AP@list.waseda.jp

【個人情報の取り扱い】

ご提出いただいた個人情報は採用選考のために利用します．なお，採用が決定された方の個人情報については，引き続き採用後の雇用管理のために利用します．その他の方の個人情報は，採用試験終了後，当学が責任を持って廃棄いたします．

9．評議員会議事録

2004・2005年度 第4回評議員会議事録

日時：2005年12月3日（土）13：00～15：30

場所：統計数理研究所 会議室

出席者：会長：山本拓，理事長：竹村彰通

評議員：伊藤彰彦，稲葉弘道，牛沢賢二，木下宗七，国友直人，佐藤整尚，杉浦成昭，杉山高一，高橋一，田中豊，大戸隆信，根本二郎，福井武弘，藤井光昭，前田忠彦，牧野都治，丸山久美子，渡辺美智子（以上20名，委任状18通），（オブザーバ：黒住英司）

冒頭，会長より，評議員会の成立が宣言された．

報告事項：

<議題1> 理事会からの報告

竹村理事長より，資料に基づいて理事の交代および欧文誌・和文誌の進捗状況について報告があった．

<議題2> 2005年度学会賞関係会計報告

山本会長より，資料に基づいて2005年度学会賞関係会計の報告があった．

<議題3> 各委員会からの報告

[学会活動特別委員会]

国友委員より，資料に基づいて「日本統計学会研究論文賞」の設立に関する検討状況について報告があった．一般に，研究論文は発表の時期と評価時期がずれることから，過去3年程度までさかのぼって論文を評価する方針であることが説明された．

[統計教育委員会]

渡辺委員より，資料に基づいて10月および11月に開催された委員会およびシンポジウムについて報告があった．

<議題4> 研究部会中間報告

研究部会「高次元データ解析法の開発と評価に関する研究」について，若木宏文主査より書面による報告が届いていることが前田評議員より説明があり，回覧された．なお，会計報告の承認については，会長・理事長に一任することとなった．

<議題5> 75周年記念事業委員会報告

杉山委員長より，資料に基づいて75周年記念事業に関する説明があった．

< 議題 6 > 外部組織との連携などについて

山本会長より、資料に基づいて「日本学術会議協力学術研究団体」への申請が行われたこと、および「情報・システム研究機構統計数理研究所リスク解析戦略研究センター」の発起組織の一員となったことが報告された。

< 議題 7 > 入退会者の確認

入退会者が回覧資料にて確認された。

< 議題 8 > その他

竹村理事長より、横幹連合のコンファレンスについて報告があった。

審議事項：

< 議題 9 > 団体会員の入会申し込みについて

「農林水産省大臣官房統計部」から団体会員の入会申し込みが審議され、了承された。

< 議題 10 > 研究部会の新設について

研究部会「統計教育に関するカリキュラムと教育コンテンツの国際比較研究部会（主査：竹内光悦）」の新設が審議され、了承された。

< 議題 11 > 60周年記念基金の現状と今後について

山本会長より、資料に基づいて60周年記念基金の現状について説明があった。また、今後の基金の運営について議論が行われ、次回評議会にて会長が具体案を提案することとなった。

< 議題 12 > 今後の事務局のあり方について

今後の事務局のあり方について議論・検討がなされ、すでに一部の業務を委託している（財）統計情報研究開発センターに、2006年4月から事務業務を全面委託することが了承された。また、2007年度以降の事務局移転を、2006年度総会で諮ることとなった。

< 議題 13 > その他

・福井評議員より、日本学術会議の改革について説明があり、意見が交換された。

・外部組織からのアンケート依頼について検討がなされ、アンケートの実施の可否について会長および理事長に一任することとなった。

・秋季の大会以外に、日本統計学会独自の大会を開くことの是非について意見が交換された。

10. 会合案内

システム制御情報チュートリアル2006

「ゲインスケジューリング - 実践から学ぶ指針と工夫」（日本統計学会協賛行事）

期 日：2006年6月12日（日）～13日（火）

会 場：大阪大学中之島センター

（大阪市北区中之島4-3-53）

主 催：システム制御情報学会

協 賛：日本統計学会他

定 員：先着60名（有料）

照会先：システム制御情報学会

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町14番地

近畿地方発明センタービル内

Tel：075(751)6413

Fax：075(751)6037

URL：http://www.iscie.or.jp/

11. 学会の事務連絡先変更について

会報第126号でもお知らせしました通り、2006年4月より、学会の事務業務を全面的に財団法人統計情報研究開発センター（SINFONICA）に委託しております。会員の名簿データベース管理もSINFONICAが行っています。会則第2条が変更

されるまで学会の事務所は形式的に統計数理研究所（東京都港区南麻布4-6-7）内に置かれますが、事務的な連絡はいずれもSINFONICAが宛先となります。

事務連絡先は下記の通りです。また会員名簿の

後ろのページには学会への連絡手引きが記載されていますので合わせてご覧下さい。

新事務連絡先

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F
財団法人 統計情報研究開発センター
(SINFONICA)
日本統計学会係
電話 03-5467-0483 (Fax兼)
E-mail : shom@jss.gr.jp

[庶務理事と学会事務担当宛 : 学会の一般的事項]

jstatsoc@sinfonica.or.jp

[学会事務担当者のみ : 会費関係は直接こちらへ]

以下のホームページ・メール関係のアドレスに変更はありません。

ホームページURL : <http://www.jss.gr.jp/>

住所等 (登録事項) 変更用 : meibo@jss.gr.jp

広報連絡用 (会報, HP) : koho@jss.gr.jp

その他の連絡用 (事務一般) : shom@jss.gr.jp

12. 事務局から

投稿のお願いとお知らせ

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。新刊の紹介なども歓迎いたします。

来日統計学者の紹介につきましては、訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお寄せ下さい。さらに、求人案内 (教員公募) なども受け付けております。

できるだけe-mailによる投稿、もしくは、文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先

〒700-8530 岡山市津島中3-1-1
岡山大学大学院環境学研究科 栗原考次 宛
Tel : 086-251-8832 (ダイヤルイン)
Fax : 086-251-8832
E-mail : koho@jss.gr.jp
(統計学会広報連絡用e-mailアドレス)

学会費払込のお願い

2006年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。また便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-9 大和ビル2F
財団法人 統計情報研究開発センター
日本統計学会係
TEL & Fax : 03-5467-0483
E-mail : jstatsoc@sinfonica.or.jp

75周年記念事業寄付金の振込用紙について

前回お送りした振込用紙には寄付金用である旨の印刷が間に合いませんでしたが、今回寄付金用と明記した振込用紙をお送りしております。募金への協力をよろしく願いいたします。

募金の趣意書は、75周年記念事業委員会のホームページをご覧ください。

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

古田 稔会員

退会者

中西雅之、宮良いずみ、近澤孝昌、菅野隆三、小

柳義夫，中石章，腰腹久雄，大隈彰道，石塚貴広，
二宮玲子，西田俊夫，富永斉，岡崎卓，熊谷哲孝，
野中敏雄，能登原盛弘，嵯峨剛史，南條善治，四
戸知昭，田邊靖夫

現在の会員数（2006年4月14日）

名誉会員	25名
正会員	1476名
学生会員	48名
総計	1549名
賛助会員	17法人
団体会員	4団体

- ・統計学会ホームページURL：
<http://www.jss.gr.jp>
- ・統計関連学会ホームページURL：
<http://www.jfssa.jp>
- 75周年記念事業ホームページURL：
[http://www.math.chuo-u.ac.jp/
sugiyama/jss75/](http://www.math.chuo-u.ac.jp/sugiyama/jss75/)
- ・住所変更連絡用e-mailアドレス：
meibo@jss.gr.jp
- ・広報連絡用e-mailアドレス：
koho@jss.gr.jp
- ・その他連絡用e-mailアドレス：
shom@jss.gr.jp